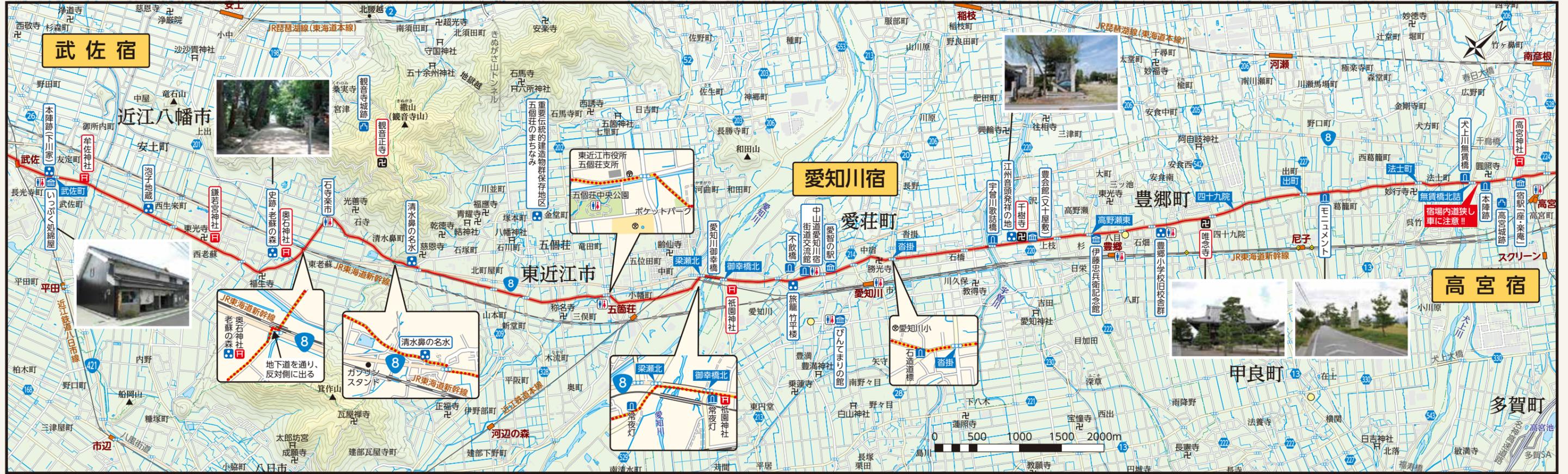


武佐宿からびん細工てまりの愛知川宿を通り、豊郷、高宮宿へ

武佐宿から
高宮宿
約18km

武佐宿を出、老蘇の森にたつ奥石神社をとおり、近江商人のまち五個荘の町並みを横手に、歌川広重の浮世絵にも描かれた愛知川の御幸橋を渡り、びん細工てまりで知られる愛知川宿へ。平将門の伝説が残る歌詰橋を渡り、豪商・伊藤忠兵衛の出身地、間の宿・豊郷から彦根・井伊藩の玄関口、多賀大社の門前町として繁栄した高宮へとたどりつきます。



清水鼻の清水

「居醒の清水」(米原市)、十王村の水(彦根市)とともに、湖東三名水の一つ。中山道を行き交う旅人ののを潤していました。今もわずかに湧いています。



五個荘金堂の町並み

五個荘金堂地区は近江商人ゆかりの地。舟板塀や白壁をめぐらした蔵屋敷など、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。近江商人屋敷3館(外村宇兵衛邸・外村繁邸・中江準五郎邸)が公開されています。

- TEL: 0748-48-2100(東近江市観光協会)
- 開館時間: 9:30~16:30
- 入館料: 近江商人屋敷3館共通: 一般1,000円
- 休み: 月・祝日の翌日・年末年始



老蘇の森・奥石神社

万葉の昔から歌に詠まれてきた名高い森で、国の史跡に指定されています。森の中にある奥石神社の祭神は、藤原氏の祖である天津児屋根命(あまつこやねのみこと)です。創祀については明らかではありませんが、もともと、この神社は織山(きぬがさやま)(観音寺山)山頂の磐座を遷す祭礼場として営まれたものであるといわれています。安産、延寿、狩猟、農耕の神様とし崇拝されています。本殿は国の重要文化財に指定されています。

「のかげえぬ老曾の杜の紅葉ばは
ちりかひくもるかひなかりけり
(兼好法師)」

びんてまりの館

全国にある約3,000の公共図書館の中から、地域に根差した活動をしている図書館を選り「Library of the Year 2007」の大賞を受賞した実績をもつ愛荘町立愛知川図書館。その複合施設内に、伝統工芸品を紹介する「びんてまりの館」があります。江戸時代から伝わる不思議な工芸品「愛知川びん細工てまり」を展示。その歴史や製作工程を解説パネルやビデオで紹介しています。



祇園神社

歌川広重の浮世絵(木曾海道六十九次之内「恵智川」)に描かれた無賃橋の守護神として勧請された神社。祇園神社祭礼の余興として始められた祇園納涼祭花火大会は、滋賀県最古の伝統を持つ花火大会として知られています。



愛知川宿

中山道65番目の宿場である町でもありました。また、伊勢に向かう東海道土山宿に通じる「御代参街道」の分岐点です。広重の浮世絵に描かれている愛知川「無賃橋」は、大雨が降り、濁流となって愛知川に多くの人馬が呑み込まれたために、寄付を集めてつくられた、当時としては珍しい通行料をとらない橋のことです。

また「びん細工てまり」は、由来がはっきりしませんが、江戸時代から愛知川にだけ伝承されている工芸品です。



中山道愛知川宿街道交流館 愛知川ふれあい本陣

愛知川宿の本陣跡。大正15年建築の旧近江銀行愛知川支店と奥の民家を改装した施設。元銀行の建物は「情報発信施設」として、愛知川宿の歴史や文化などを紹介しています。ロビーでは、コンサートも開催されています。古民家は「体験交流・滞在施設」。コミュニケーションの場、サロンとして利用され、宿泊もできます。また、和風喫茶「なごみカフェ」のモーニングサービスはおすすめです。

- TEL: 0749-42-2165
- 時間: 9:00~18:00
- 体験交流・滞在施設は~21:00
- 休み: 第1月曜日(祝日の場合は翌日)・なごみカフェは毎週月曜日



豊郷(間の宿)

豊郷町石畑の歴史は古く平安時代後期にまで遡ります。弓矢の名手として名をはせた那須与一の次男石高民部大輔宗信が、豪族佐々木氏の旗頭として那須城を造りこの地を治めていました。また江戸時代後期には、高宮宿と愛知川宿の間の宿として発展、旅人や馬の休息の場として栄えました。



伊藤忠兵衛記念館

「黒い塀に見越しの松」と呼ばれる板張りの塀と、その向こうに見える松がひときわ目立つ旧家。現在の大手商社伊藤忠・丸紅の創始者で近江商人の筆頭としてあげられる伊藤忠兵衛が住んでいた屋敷が記念館として開放されています。

- TEL: 0749-35-2001
- 開館時間: 10:00~16:00
- 入館料: 無料
- 休み: 月



豊郷小学校旧校舍群

米国人建築家メリル・ウォーリスの設計で知られる小学校。12歳の時から叔父伊藤忠兵衛のもと、丸紅の丁稚奉公から商魂を鍛えあげ、重役として活躍し、大実業家となった古川鉄治郎が私財の3分の2に相当する60万円(現在の物価では数十億円)を投じて建築されました。現在は町の複合施設として利用されており、自由に見学できます。

- TEL: 0749-35-8131
- 開館時間: 平日 8:30~17:00 休日 9:00~17:00



多賀大社一の鳥居

高宮宿のはほぼ中央に、街道を起点として、東にまっすぐ高宮道がのびています。これは多賀大社への正式な参拝道(表参道)で、多賀道とも呼ばれました。寛永8年(1631)、徳川二代将軍秀忠の病氣平癒のため春日局が代参された際に、彦根藩がこの道を整備したという記録が残されています。街道に面した高宮道の入口に建つ石造りの巨大な鳥居は、滋賀県指定文化財となっている「多賀大社一の鳥居」です。鳥居に架る扁額は、のちに百七十三代天台座主となる尊純親王の染筆と伝えられています。



高宮宿

中山道の彦根への玄関口の一つとして設けられました。天保14年(1843)の記録によれば町の南北の長さ、7町16間(約800m)、本陣1、脇本陣2、旅籠2軒、総戸数835戸、人口3,560人、本庄宿に次ぎ、中山道第2の大宿であったと伝わります。また、多賀大社の門前町としても賑わい、多賀大社一の鳥居が宿場の中程に建っています。特産物として室町時代から全国的に有名になっていた麻布高宮上布の集散地として、豊かな経済力を誇っていました。



高宮神社

創建年代は明らかではありませんが、鎌倉時代末期までさかのぼると伝えられ、高宮宿の厚い信仰を支えられてきました。古くは十禅師宮、山王権現と称し、日吉神領に起因すると考えられています。明治5年(1872)に高宮神社と改称されました。本殿は高欄擬宝珠格から1678年の建立。隨身門は棟札に1849年とあります。



無賃橋

高宮宿に入る手前、犬上川に架かる橋。天保3年(1832)、彦根藩は藤野四郎兵衛など近隣の豪商に命じ、一般から寄付を募って犬上川に橋を架けさせました。誰もが無料で渡れた事から「無賃橋」という名前が人々に親しまれました。



宿駅「座・楽庵」

高宮宿、高宮神社の前。江戸時代の近江上布の店「布惣」を改装した建物。喫茶おとくらやギャラリースペースあります。土・日曜のみ営業しています。

